

特集

使える「患者役」 になるう！

看護教育においては、常に「患者役」が必要となります。ペーパーペイシェントや数値だけの事例を除けば、授業から演習、技術の習得から接遇対応のシミュレーションまで、患者役が存在しない場面はないと言ってもいいでしょう。ただ、高度な教育を受けた SP (Standardized Patient) が不可欠な OSCE はともかく、訓練された模擬患者を授業で活用できる機会は限られていますし、臨床看護師に患者役で協力してもらうのも、常にとはいきません。当然教員がその役割の大半をこなすことになります。

大抵の教員は、自らの臨床経験と学んだ知識で患者役を演じます。けれども、そこに目的達成のために「演じている」という意識はあるのでしょうか？ さらに言えば、学生に患者役をさせる際に、「演じる」ことを意識させているのでしょうか？

今回の特集では、教員が患者役を演じることの重要性を再認識していただいたうえで、いかにすれば教育効果を高める患者役になれるかを考えていただくものです。模擬患者教育の実情や正式な養成を受けた模擬患者の演技方を参考に、より使える患者役になっていただきたいと思います。